

前眼部診療の最新トピックス

●企画にあたって

前眼部疾患は、そのアクセスの容易さも手伝って、古くから診断的価値の高い検査法や有効な治療法が確立されている。

しかしながら、医学の進歩と患者サイドの要求水準の上昇によって、標準的検査や治療の限界がみえてくるようになり、より低侵襲かつ高精度の医療が求められている。

医用工学、分子生物学、光学あるいは再生医療の進歩によって、従来の方法では、到底不可能であった精密な診断や個別化した治療が行える可能性が出てきた。従来の診断法や治療法の限界を知る医師にとって、これら新しいモダリティは大変魅力的である。しかしながら、新しいが故に標準的方法と異なる新しい問題点が生じる可能性があり、その risk/benefit を考慮した診断法や治療法の選択が望ましい。

また、保険診療では、その枠組みを守る必要があり、さらに社会保障費を抑制する政策が必要である状況下においては、コスト増の傾向がある新しい方法に対して医療経済的視点も考慮する必要がある。

このような現在の状況では、ある前眼部疾患に対して自施設で従来の方法で診断や治療を行うべきであるか、先進医療、臨床試験を行っている施設、設備のある施設に紹介するべきか、あるいは、自施設で今後そのような診断や治療を行う体制を構築すべきか熟考する必要がある。そのためには、それぞれの診断法や治療法に関する、歴史、現況を理解することが重要であると考えられる。

そこで本特集では、前眼部診療における最新のトピックスとして、先進医療として認められている前眼部3次元画像解析、角膜ジストロフィの遺伝子診断、難治性眼感染症に対するPCRの3つの診断法、企業主導治験あるいは医師主導治験の段階にある眼表面疾患の再生医療、および近年保険収載された羊膜移植、フェムト秒レーザーを用いた角膜移植の6つを選択し、エキスパートの先生方に、それぞれの現況、臨床における有用性、あるいは限界についてたいへんわかりやすくご執筆いただいた。

本特集によって前眼部疾患に対する新しい診断法や治療法に関して理解が深まり、読者の皆様のお役に立てれば幸いである。

前田直之

大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学寄附講座